

# ファイバー・レーザー導入

## 大野社 切断・加工機 速度向上

**【神戸】**大野社（神戸市北区、大野光夫社長、078・591・1051）は10月、九州工場（長崎県佐世保市）にファイバーレーザー加工機を1台導入する。投資額は600万円。老朽化した従来の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）レーザー加工機に入れ替える。ファイバーレーザー加工機を用いて、従来手作業だった真ちゅうや銅など金属板の切断・加工を機械化する。

加工速度は従来比1.5~2倍上がる見通し。

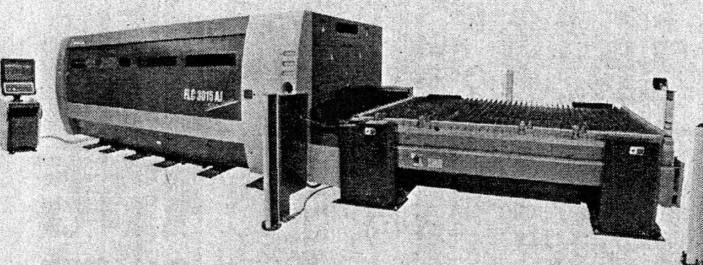
し。鉄やステンレスに比べて柔軟で、パッキンやガスケット用途に適するという。

九州工場では船舶や発電所用バルブ向けの耐熱性や耐久性の高いパッキンやガスケットの需要の増加を受け、2018年8月に延べ床面積を従来比500平方㍍拡張し、約2800平方㍍とした。3次元測定機を導入し、高度化する品質要求に

3月期比10%増の約3億3000万円を目指す。

加工速度の向上や作業者負担の低減を図る。20年3月期における九州工場の売上高を19年

上高の約60%を占める。半導体製造装置に組み込まれるバルブ向けパッキンなど、少量多品種での生産を強みとする。



大野社はファイバーレーザー加工機を導入する